

統合分野 在宅看護論 授業計画

授業科目及び時間数	在宅看護 I 1 単位 15 時間		
開講時期	2 年次 前期		
担当教員	大畑浩美・大石敦子	実務経験	有
<p>科目のねらい・到達目標</p> <p>在宅療養の場における看護は、社会の変化に伴い刻々と変化していく制度や地域包括ケアシステムを基盤とし、個のケアから地域システム全体を見渡し、ケアを展開する役割を期待されている。このような役割を理解するためには、在宅看護の変遷やその社会背景をはじめ、在宅看護の目的・基本的な理念や関連する概念を学ぶことが必要となる。在宅看護の対象特性と家族を含めた支援の在り方、並びにその基盤となる法制度を学ぶ。さらに、在宅ケアにおけるケアマネジメントや地域包括ケアシステムの基本、関係機関・職種との連携の必要性、社会資源を学んでいく。この科目では、在宅看護の目的・特性を理解することと、在宅看護の対象となる人々とその家族について理解することを目標としている。</p>			
授業計画・内容・担当教員			
1 回目	1. 在宅看護が必要とされる社会的背景と在宅看護の役割	講義（大畑）	
2 回目	1. 在宅看護における倫理と基本理念、対象者の権利保障	講義・グループワーク（大畑）	
3 回目	1. 在宅看護の提供方法および意志決定支援と調整	講義・グループワーク（大畑）	
4 回目	1. 療養の場の移行、退院支援・退院調整について	講義・グループワーク（大石） 退院調整看護師	
5 回目	対象者の特徴、住まい方と健康、在宅看護の対象者としての家族（家族システム理論の理解）	講義（大畑）	
6 回目	1. 在宅看護の制度 2. 発展の経緯とケアマネジメント 3. 介護保険制度 4. 訪問看護制度・訪問看護サービスの提供	講義（大畑）	
7 回目	1. 地域における多職種連携 2. 社会資源としての人材/制度・サービス/機関・施設 3. ケアプラン作成（介護保険）	講義・演習（大畑）	
8 回目	終了試験		
評価方法	筆記試験 100%		
受講生に対するメッセージ	授業は個人ワーク、グループワーク、演習を含めて行う。このワークが試験評価に反映されるので、積極的に取り組んでほしい。また、演習前には課題学習を行う。終了試験（筆記）のみで評価するので、授業中に知識確認テストを行い、課題は解答学習をして試験対策を行う。		
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院		
参考書			

